

# ほ場準備

## 1. 土づくりの大切さ！

直播で安定確収を目指すには、土を乾かすことが大切です。特に泥炭土では、乾土効果が高めることで、生育期間中の地温上昇効果も高まり、窒素が多く発現します。耕起前に、土をしっかりと乾かしましょう！

### 直播で多収が可能な土壌条件

- 透排水性が良く、乾土効果の発現しやすいほ場
- 土壌肥沃度（可給態窒素）が10mg/100g以上
- 復元田（直播を含めた麦・大豆との輪作体系）
- 生育期間中の減水深が2cm以下
- 均平度（標準偏差）が2.5cm以下
- 耕起時に碎土性が良く、2cm土塊が70%以上



## 2. まずは融雪促進！



## 3. 耕起、均平、仕上げ耕起の注意点

- (1) 融雪後の粗耕起は、ほ場が十分乾燥してから行いましょう。
- (2) 粗耕起後も、土壌表面の水分が低下してから均平作業を行いましょう。
- (3) 均平作業後も、土壌水分が十分に低下してから仕上げ耕起（碎土）を行いましょう。
- (4) 湛水直播では、仕上げ耕起は移植栽培と同程度の碎土性でもよいです。（代を掻くので）

### 作業手順



土壤水分が高いと逆効果  
乾燥していると均平板でも碎土効果が発揮される  
このように作物の残渣物もなく、綺麗な仕上がりとなる（乾田の理想状態）

# 施肥（基肥・側条・追肥）

## 1. 土壌条件別の施肥量（大地の星、多収専用）

乾田、湛水に生育違いがあるものの、基本的な施肥量は同じです。窒素の施肥総量を重視して施肥設計します。

表-8 土壌タイプ別の施肥量の目安（窒素）

土壌タイプ	窒素(N) kg/10a				オススメ度
	基肥	側条	追肥	合計	
泥炭土	0~4	0~4	0~4	0~12	◎
粘土系土壌	2~6	2~4	0~4	4~14	○
砂質系土壌	4~8	2~6	2~6	8~20	×~△
復元田	0~3	0~3	0~4	0~10	○~◎

直播栽培の大地の星は移植栽培一般品種の1~2割増肥。

<復元田のポイント>

乾田では漏水対策が必要です。（十分な鎮圧）湛水では代を掻き過ぎてはいけません。（碎土が良いために起りやすい）

## 2. 肥料の選び方（大地の星、多収専用）

- (1) 地力の発現に加えて、稲の窒素吸収量を高めたい時期に、効く銘柄を選びましょう。
- (2) リン酸・カリは土壌診断の結果により、施肥量を決めましょう。
- (3) 経済性を重視して銘柄を選択しましょう。

表-9 施肥方法と肥料の選び方

施肥法	効かせたい時期	考え方
基肥	幼穂形成期10日前～止葉期	アンモニア態～有機態を土壌にあわせてバランスよく配合する
側条	分けつ期～10日間	即効性で、分けつ期までに流亡しない形状のもの
追肥	散布後直ぐに	即効性のアンモニア態のもの



## 3. 追肥は多収と生育促進の切り札！（チャンスは4回）

この4回の時期の生育状態を、3つのポイントから総合的に判断して追肥を実施します。

茎数	生育進度	葉色
----	------	----

表-10 苗立本数の調査結果と追肥の目安

苗立本数 本/m <sup>2</sup>	1回目 分けつ期 6月15日頃	2回目 分けつ期 7月1日頃	3回目 幼穂形成期 幼穂2mm	4回目 止葉期
150以下	2~4	0~4	要相談	要相談
150~180	0~4	0~4	要相談	要相談
180以上	0~4	0~4	要相談	要相談

表-11 葉色による追肥の要否判断基準

項目	6月20日頃	7月1日頃	幼穂2mm	止葉期
葉色	36以下	40以下	40以下	40以下



生育ムラが大きい場合は、追肥量により、ムラ直しをする。

※ 葉色:葉緑素計 (SPAD) による測定数値